

平成26年5月16日

平成26年度 鉄道・自動車設備投資計画

安全対策とお客様サービス向上に総額約68億円を投入

相 鉄 グ ル ー プ

相鉄グループでは、平成26年度（平成26年〔2014年〕4月1日～平成27年〔2015年〕3月31日）において、鉄道事業と自動車事業に対して総額68億円（鉄道事業64億円・自動車事業4億円）の設備投資を実施します。

鉄道事業（相模鉄道㈱：本社・横浜市西区、社長・小澤重男）では、お客様の安全と輸送の安定を確保するため、踏切に監視カメラの新設や障害物検知装置の更新を行うほか、高架橋の耐震補強を行い、安全性の向上を図ります。

また、お客様サービスの向上と省電力化を図るために、新型自動改札機の導入や、行先案内表示装置の新設、駅のリニューアル工事、電車内照明のLED化を進めます。

自動車事業（相鉄バス㈱：本社・横浜市西区、社長・菅谷雅夫）では、さらなるバリアフリー化を推進するため、お客様が乗降しやすい大型ノンステップバス11両を導入します。また、運賃やバス停名をきめ細かに案内表示ができる液晶カラーモニターを使用した停名表示機を全車に導入し、お客様に利用しやすいバスとしてサービスの向上に努めます。

鉄道事業と自動車事業の主な設備投資計画は、別紙のとおりです。



分かりやすい画面表示とラインライトを搭載した新型自動改札機（平成25年度設置）

(記号：◎今年度竣工工事・○継続工事)

[鉄道事業] 64億円

1. 輸送力の増強【25億円】

○自動改札機の更新

自動改札機の更新に際して、お客様のスムーズな通行を確保するため自動改札機上部に色で通行の可否をお知らせするラインライトを搭載するほか、お客様からいただいたご意見をもとに分かりやすい画面表示を実現し、利便性の向上を図ります。

○駅舎のリニューアル

駅舎のリニューアルを進めて、より快適で利用しやすい駅づくりに努めます。(平成26年度は平沼橋駅を予定)

2. 安全・安定輸送の確保【31億円】

◎9000系電車の情報処理装置と車外表示機の更新

9000系電車のドア上などに設置している車内案内表示機を、新型表示機に交換します。また、車外表示機をフルカラーLEDに変更し、省電力化と視認性の向上を図ります。

○相模鉄道本線(星川駅～天王町駅)連続立体交差事業

星川駅～天王町駅間の踏切による交通渋滞の緩和や交通安全の確保、周辺道路の整備を図るために、星川駅と天王町駅を含めた約1.8kmを高架化し、9箇所の踏切を廃止します(平成14年度〔2002年度〕に着手)。平成26年度も、引き続き工事区間のほぼ全域にわたって、高架橋本体の構築や道路交差部の橋桁の製作および架設などを進めるほか、駅ホームおよび上屋の設置を進めます。

○踏切監視カメラの新設

踏切に監視カメラを新設することにより、列車の安定輸送と安全の確保に努めます。

◎構造物耐震補強

高架橋の耐震補強を行い、地震発生時の安定輸送の確保に努めます。

○踏切障害物検知装置の更新

既存の障害物検知装置を更新し、保安度の向上と安全性の向上を図ります。

3. お客様サービスの向上【8億円】

○行先案内表示装置の設置

ホームに行先案内表示装置の新設を行うことで、乗換・待避接続案内・停車駅などをご案内し、より一層のお客様サービスの向上に努めます。(平成26年度は三ツ境駅を予定)

○ホーム待合室の新設

ホームに待合室を新設することで、お客様サービスの向上を図ります。(平成26年度はさがみ野駅を予定)

◎車内照明のLED化

電車内の車内照明をLED化することにより、明るい車内と省電力化を実現します。

平成26年度は15編成(10000系1編成、9000系6編成、8000系8編成)に実施します。

[自動車事業] 4億円

◎乗合バス購入(11両)

変速ショックの少ないオートマチックトランスミッションを採用し、お客様が乗降しやすいニーリング機能付き大型ノンステップバス11両を導入します。

◎停名表示機

運賃やバス停名をきめ細かに案内表示ができる、液晶カラーモニターを使用した停名表示機を全車に導入します。